

令和 7 年産水稻の 10 a 当たり平年収量（検討参考） （1.70 mmのふるい目幅）

令和 7 年 3 月
統 計 部

1 全国値 539kg（＋ 2 kg）

2 都道府県値

前年から変動した都道府県は以下の 19 道県である。

○増加した都道府県（9 道県）

北海道（＋10kg）、青森県（＋ 7 kg）、岩手県（＋ 4 kg）、
宮城県（＋ 6 kg）、福島県（＋ 7 kg）、茨城県（＋ 2 kg）、
千葉県（＋ 5 kg）、山口県（＋ 5 kg）、沖縄県（＋ 3 kg）

○減少した都道府県（10 県）

山梨県（－ 4 kg）、長野県（－ 3 kg）、静岡県（－ 3 kg）、
愛知県（－ 4 kg）、三重県（－ 3 kg）、兵庫県（－ 5 kg）、
高知県（－ 3 kg）、佐賀県（－ 2 kg）、宮崎県（－ 3 kg）、
鹿児島県（－ 6 kg）

令和7年産水稻の10a 当たり平年収量（検討参考）

単位:kg

都道府県	平 年 収 量					対前 年差	主 な 生 産 事 情
	R3	4	5	6	7		
北 海 道	552	556	561	571	581	10	①冷害による極端な減収のリスクが低下していること、②近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
青 森	602	603	603	607	614	7	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②冷害による極端な減収リスクが低下していること、③近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
岩 手	540	540	540	544	548	4	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②冷害による極端な減収リスクが低下していること、③近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
宮 城	541	541	541	547	553	6	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②冷害による極端な減収リスクが低下していること、③近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
福 島	551	551	551	553	560	7	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②冷害による極端な減収リスクが低下していること、③近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
茨 城	525	525	527	527	529	2	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
千 葉	544	544	544	544	549	5	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
山 梨	547	547	547	542	538	△ 4	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
長 野	619	619	619	619	616	△ 3	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
静 岡	520	520	520	518	515	△ 3	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
愛 知	507	507	507	502	498	△ 4	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
三 重	500	500	500	500	497	△ 3	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
兵 庫	501	501	501	501	496	△ 5	①収量水準が高くないものの、環境に配慮した品種が増加傾向であること、②近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
山 口	504	504	504	504	509	5	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等
高 知	456	456	456	456	453	△ 3	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
佐 賀	519	519	519	519	517	△ 2	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
宮 崎	496	496	496	496	493	△ 3	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
鹿 児 島	485	485	485	485	479	△ 6	近年の収量水準が平年収量を下回って推移していること等
沖 縄	309	309	309	312	315	3	①収量水準の高い品種が増加傾向であること、②近年の収量水準が平年収量を上回って推移していること等

令和7年産水稻の全国農業地域別・都道府県別10a当たり平年収量（検討参考）

1 1.70mmのふるい目幅

2 多くの農家等が使用しているふるい目幅

単位：kg

全 国 都道府県	10a当たり 平年収量	前年産 対 差	10a当たり 平年収量 (ふるい目幅)	前年産 対 差
全 国	539	2	515	2
北海道	581	10	(1.90mm) 554	10
青 森	614	7	(1.90mm) 585	7
岩 手	548	4	(1.90mm) 521	4
宮 城	553	6	(1.90mm) 521	5
秋 田	577	0	(1.90mm) 542	0
山 形	603	0	(1.90mm) 570	0
福 島	560	7	(1.85mm) 540	6
茨 城	529	2	(1.85mm) 508	2
栃 木	540	0	(1.85mm) 515	0
群 馬	498	0	(1.80mm) 482	0
埼 玉	494	0	(1.80mm) 479	0
千 葉	549	5	(1.80mm) 539	6
東 京	414	0	(1.80mm) 404	0
神奈川	494	0	(1.80mm) 475	0
新 潟	542	0	(1.85mm) 524	0
富 山	547	0	(1.90mm) 519	0
石 川	523	0	(1.90mm) 497	△ 1
福 井	519	0	(1.90mm) 483	0
山 梨	538	△ 4	(1.85mm) 513	△ 3
長 野	616	△ 3	(1.85mm) 597	△ 2
岐 阜	485	0	(1.80mm) 475	0
静 岡	515	△ 3	(1.85mm) 496	△ 3
愛 知	498	△ 4	(1.85mm) 481	△ 3
三 重	497	△ 3	(1.85mm) 475	△ 3
滋 賀	518	0	(1.90mm) 484	1
京 都	510	0	(1.85mm) 493	1
大 阪	495	0	(1.80mm) 479	1
兵 庫	496	△ 5	(1.85mm) 474	△ 4
奈 良	513	0	(1.80mm) 500	0
和歌山	503	0	(1.80mm) 491	0
鳥 取	514	0	(1.85mm) 496	1
島 根	514	0	(1.90mm) 484	0
岡 山	526	0	(1.85mm) 499	0
広 島	528	0	(1.85mm) 509	1
山 口	509	5	(1.85mm) 486	5
徳 島	474	0	(1.80mm) 462	0
香 川	496	0	(1.80mm) 480	1
愛 媛	498	0	(1.80mm) 482	0
高 知	453	△ 3	(1.80mm) 441	△ 4
福 岡	491	0	(1.85mm) 453	1
佐 賀	517	△ 2	(1.85mm) 486	△ 1
長 崎	485	0	(1.80mm) 465	0
熊 本	513	0	(1.85mm) 479	0
大 分	499	0	(1.85mm) 454	0
宮 崎	493	△ 3	(1.80mm) 479	△ 3
鹿 児 島	479	△ 6	(1.80mm) 464	△ 6
沖 縄	315	3	(1.80mm) 308	3

注：1 2の多くの農家等が使用しているふるい目幅とは、都道府県ごとに過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。

2 令和7年産水稻の作柄表示地帯別10a当たり平年収量については、6月末頃を目途に決定する。

令和7年産水稻の全国農業地域別・都道府県別10a当たり平年収量（検討参考）

1 1.70mmのふるい目幅

2 多くの農家等が使用しているふるい目幅

単位：kg

全 国 農業地域	10a当たり 平年収量	前年産 対 差	10a当たり 平年収量	前年産 対 差
都 府 県	536	1	512	2
東 北	575	4	545	3
北 陸	538	0	515	0
関東・東山	540	1	521	1
東 海	498	△ 2	481	△ 2
近 畿	506	△ 3	483	△ 2
中 国	520	1	496	1
四 国	481	△ 1	467	△ 1
九 州	499	△ 1	468	△ 1
関東農政局	538	0	520	1
東海農政局	495	△ 1	478	△ 1
中国四国農政局	508	1	487	1